

# 水稻生育情報 (No.6)

平成 26 年 7 月 23 日  
県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)

## 【生育概況】

7月の平均気温はほぼ平年並みとなり、降水量は、第4半旬が平年よりも多かったため、降水量は多くなっています。関東甲信地方の向こう1か月の天候見通しですが、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は平年並み～高く、降水量は平年並み～多くなると予想されています。

水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を下表に示します。生育は平年並みとなっています。平年に比べ草丈は同程度、茎数は同程度～多くなっています。葉色は同程度～やや濃くなっています。出穂はほぼ平年並かやや遅いと予測されますが、今後の気象条件で前後することがあります。

## 7月18日現在の生育状況(コシヒカリ)

調査地点	田植え日 (月/日)	植付株数 (本/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色		幼穂長 (mm)	出穂予測日 (月.日)
					葉色板	SPAD値		
筑西市 一本松	5月2日	59	87.2	565	4.0	28.3	121	7月27日
	(5月3日)	(65)	(94.2)	(461)	(3.6)	(29.4)	(171.0)	(7月22日*)
下妻市 加養	5月2日	42	88.5	398	3.4	28.0	141.0	7月27日
	(5月3日)	(43)	(94.1)	(423)	(3.5)	(30.8)	(184.0)	(7月22日*)
桜川市 元岩瀬	5月10日	64	90.2	448	4.1	32.7	51.2	7月29日
	(5月13日)	(58)	(88.5)	(415)	(3.7)	(31.6)	(42.1)	(7月31日*)
桜川市 真壁町飯塚	5月8日	61	92.3	404	4.0	33.1	70.2	7月29日
	(5月5日)	(55)	(88.2)	(412)	(3.2)	(26.9)	(174.3)	(7月22日*)

( )内は平成21～25年(5ヵ年)の平均値 \*は実測値  
桜川市真壁町飯塚は昨年度の調査結果

## 【これからの栽培管理のポイント】

### ・出穂期以降の根の生育と水管理について

土壌中の酸素が少ないと酸化鉄に覆われず、根腐れを起こしやすくなります。中干し以降は継続的な湛水は避け、根に水分と酸素を交互に供給する間断かん水を実施しましょう。

間断かん水は図のように入水と自然落水を交互に繰り返します。収穫前の落水は「コシヒカリ」の場合、出穂30日後以降に行います。

早期の落水や間断かん水時に田面が白くなるほど乾かすと乳白米などの障害粒や登熟不良を招きます。健全な根を育て、充実した穂を実らせましょう。

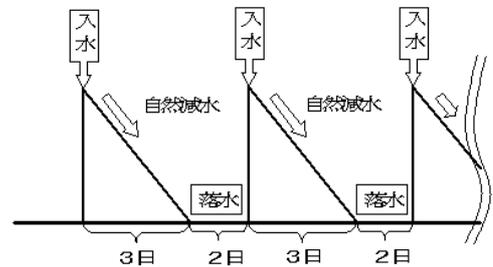


図1 間断かん水の一例

### ・適期収穫について

早刈りは青米が多く、千粒重が軽くなり、収量が低下します。逆に刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米などの着色米の発生要因となります。

出穂期から収穫までの日数は35～40日程度となります。積算気温や上記の日数はあくまでも目安なので、最終的に圃場で直接籾の色(帯緑籾率)を確認して適期収穫に努めて下さい。ちなみに、収穫適期は帯緑籾率が10～5%程度(一穂あたり約6粒前後)の時です。

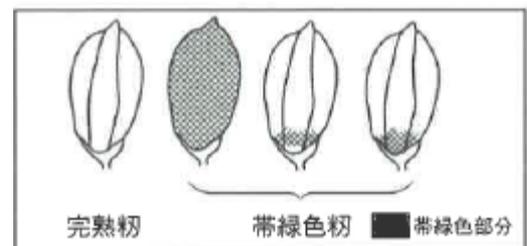


図2 帯緑籾の見分け方